



こんなことあったよ! のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 23 年 8 月 20 日～25 日(月～土)
第 7 回 能代宇宙イベント 編

今年も年に1度、能代が若者たちで賑わう能代宇宙イベントが開催されました。これは高校生・大学生によるロケット打上、人口衛星モデルによる競技を行う日本最大規模の宇宙アマチュア大会です(参加者 400 名)。今年はハイブリットロケットと呼ばれる火薬類を使わない、全く新しいタイプのロケット打上げや、缶サットと呼ばれる自立制御の衛星が気球から落下され目的地を目指す競技が行われます。

7 月に入ると能代宇宙イベント協議会事務局の和田豊先生がお見えになり、8 月末までの 2 ヶ月間宇宙への夢と希望を乗せたイベントが始動します。その中で 2 年前からすみれ会の活動拠点、上町ほっとステーションをロケット作りの場所として大学生にお貸し、学生さんたちを支援しながら交流を深めております。昨年に引き続き、上町は東海大の受け入れを行いました。

学生さんたちは初めて二段ハイブリットロケットを打ち上げるということで、夜中まで打ち上げ成功のための汗をながして奮闘。打ち上げは大成功でした。

8 月 20 日(土)は開会式。このイベントの会長、神谷修氏(秋田大学大学院工学資源学研究科附属・ものづくり創造工学センター長)が「皆さん、ようこそ日本で一番安全な秋田に…」とご挨拶。続き齊藤市長、松渕秀次氏(秋田県企画振興部学術国際局長)、井上一氏(文部科学省研究開発局宇宙開発委員会・委員長代理)、小川信明氏(秋田大学大学院工学資源学研究科長)と続きました。

昨年の会場とは打って変わって広～い会場に立派なステージ。草も綺麗に刈られ、沼地をよくぞここまで整地に。関係者各位の支援の大きさをうかがえるものでした。最後に齊藤市長さん、小学生等によるペンシルロケットの打ち上げで終了。

学生たちはそれぞれテントに戻り、再び作業。年々定着進化していくイベントに希望が見え頼もしく思います。この協



市内のあちこちでポスターを見かけるようになると能代に夏がやってきます。



ほっとステーションは東海大学のロケット工場となり、いつもとはまた違ったように、道行く人の足もとまります。



例年のようにNWのスギ製品やパラソルをだしてかき氷のおもてなし。佐々木君・平山君の高校生コンビも活躍してくれました。



関係者が一堂に会する交流会は楽しいイベントのひとつです。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

賛団体の中に NPO でも企業でもない「上町すみれ会」が入っていることに誇りを感じる私です。

そして、いつも楽しみにしているのが懇親会。協力団体と参加学生が一堂に集まり、競技受賞式、大学の自己紹介、特技(腕立て伏せ)は圧巻！沼での作業を終えての長靴ステージ！若者の熱気溢れる会場にエールをおくる姿は皆、美しく輝いて見えるから不思議！今年は新たに文系の国際教養大の皆さんがチラシ、ポスター作りで参加して下さい、理系工学といったことでなく、いろいろな特技の持ち寄りが必要なんだと感じました。

事務局として学生を支える和田先生、最初の事務局として今は応援団として毎回参加の秋山演亮(名前はヒロアキと読みます)先生(九州大)。この実績を評価され文部科学大臣表彰化学技術賞を受賞された土岐先生、神谷先生、畠議員、杉浦さんみんなピース！これからも、ずっと若者たちを支えて上げて下さい。

さて、私たちが何か・・・と昨年に引き続き、かき氷パーティー。上町が誇る高校生ボランティア、平山君と佐々木先生のご子息コラボ。今年も暑い毎日が続き、最高のパーティーとなりました。そんなところに川口衆議院議員もほっとステーションを訪問して下さい、学生たちを激励。みんなで記念写真をパチリ！いつもバタバタではありますが、みんなが楽しんでくれたら OK ですよね(^_^)

最後の片付けの時には「すいかパーティー」。みんな美味し〜いと大喜び。「これはどこのスイカですか」と聞かれて「もちろん、能代」と自慢げににっこり。このイベントが終わるとそれぞれ、全国各地に帰省する学生たち。何時か社会人となり、「あの時の、かき氷とスイカ美味しかったな〜」と言ってもらえたら、それだけで満足で〜す (^.^)~~~~

出会いに感謝…………。

文：能登 祐子



浅内の能代宇宙広場会場には各大学ごとのテントが立てられ、作業が進められます。



このイベントに必要なのは、上空にも周囲にも何も無い広〜い会場。能代にはもってこいです。見学場所からでは、草に埋もれて何をしているのかよく分かりません。会場内ではふだん乗れないものも走っています。



能代の味も学生さん達の暑い夏の思い出のひとつになってほしいですね。